2026 年 11 月 12 日
ダイナミックマッププラットフォーム株式会社

ダイナミックマッププラットフォーム、2027 年 3 月期第 2 四半期決算を発表
ライセンス型売上は前年同期比 35.8%増、フィジカル AI 向け Data for AI の事業展開が進展

ダイナミックマッププラットフォーム株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長 CEO:吉村 修一、以下「当社」)は、2027 年 3 月期第 2 四半期決算を発表しました。

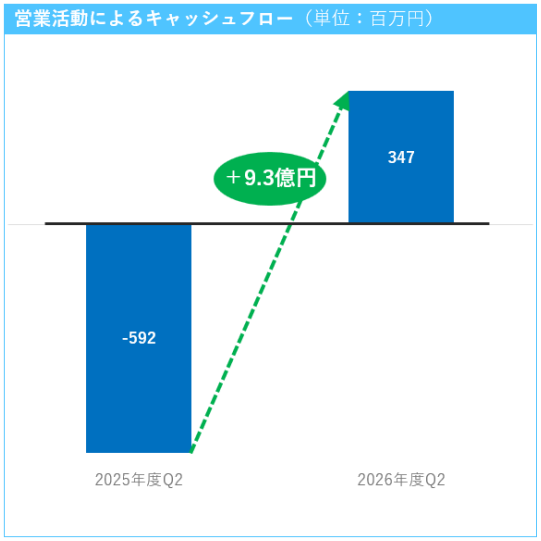
当第 2 四半期累計期間は、AI 用途を中心とした法人ライセンス案件の拡大により、ライセンス型売上高が前年同期比 35.8%増加しました。一方、前年同期に計上した北米の新規データ整備案件の反動によりプロジェクト型売上高が減少したため、連結売上高は前年同期並み、調整後 EBITDA は前年同期を下回りました。

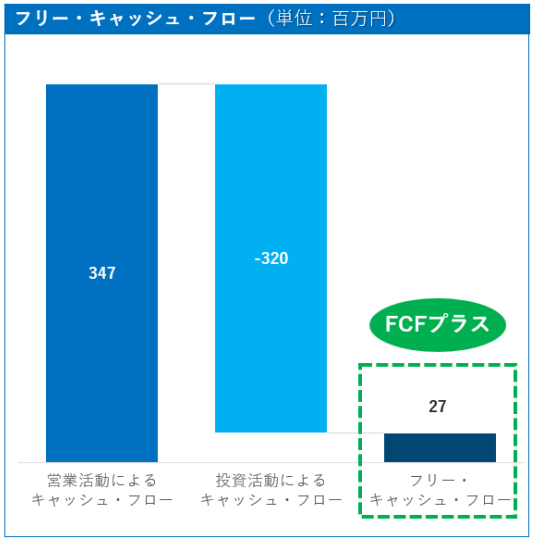
また、Road Intelligence や 3D Gaussian Splatting（3DGS）を活用した AI 学習・評価用データの開発に加え、各種プラットフォーム・企業との連携を通じた AI 開発・シミュレーション環境の構築など、フィジカル AI 向け Data for AI の事業展開が進展しました。

■ ライセンス型売上は前年同期比 35.8%増、営業キャッシュ・フローと FCF はプラス転換

連結売上高は 24 億 57 百万円（前年同期比 0.2%増）となりました。AI 用途を中心とした法人ライセンス案件の拡大により、ライセンス型売上高は 12 億 82 百万円（同 35.8%増）となりました。一方、北米の新規データ整備案件の反動により、プロジェクト型売上高は 11 億 74 百万円（同 22.1%減）となりました。

調整後 EBITDA は 10 億 63 百万円のマイナス（前年同期は 5 億 65 百万円のマイナス）となりました。売上債権の回収等により営業キャッシュ・フローは 3 億 47 百万円へ改善し、新規データ整備や M&A を含む成長投資を継続しながら、フリー・キャッシュ・フローは 27 百万円のプラスとなりました。





（2027 年 3 月期第 2 四半期　決算説明資料より）

■法人・量産ライセンスが拡大

海外大手半導体メーカー向けなど、AI 用途のオートモーティブ法人ライセンスが拡大しました。量産ライセンスでは、当社の高精度 3 次元地図データが日産「エルグランド」に採用され、累計採用実績は 6 社・39 車種となりました。

■フィジカル AI 向け Data for AI の開発・提供が進展

当社は、フィジカル AI の開発に必要な道路条件や地点を検索・比較・分析できる「Road Intelligence」と、画像、点群、高精度 3 次元地図データを統合して AI 学習・評価用の 3D 環境モデルを生成する「3D Gaussian Splatting（3DGS）」の開発を進めています。

また、顧客保有データを活用した 3D 環境モデルの生成と、当社が保有する実世界データセットの提供を通じ、自動車メーカーによる自動運転システムの機能性・安全性評価をデータ面から支援しています。dSPACE の「AURELION」との連携では、実在道路を基に走行条件やセンサ条件を変更できる「Simulation-ready World」の構築に取り組んでいます。

AI ネイティブデータは、Hugging Face に加えて Voxel51 Dataset Zoo からも利用可能となり、累計ダウンロード数は 4,500 件を超えました。NVIDIA、MathWorks、Voxel51、dSPACE との連携を通じて、フィジカル AI 向けの学習・評価・検証・合成データ生成基盤を拡充しています。

■高精度 3 次元データの活用領域とグローバル展開が拡大

物流施設内の横持輸送、物流施設・モビリティハブ、自動物流道路の 3 領域で、国土交通省事業に採択されました。当社の高精度 3 次元地図データとインフラ協調型モビリティ基盤を活用し、物流施設内から次世代物流インフラまで、物流網全体の自動化を支える共通基盤の構築を進めています。

このほか、3Dmapspocket®は、東京建物、シーラ、三井不動産レジデンシャルの不動産開発用途に加え、東京海上日動調査サービスの交通事故調査用途で採用されました。北米では、州政府の道路・交通インフラ管理機関向けの橋梁・トンネル管理や、都市樹木管理でのデータ活用を進めています。

オートモーティブ分野では、27 か国目の案件を遂行するとともに、28 か国目の案件も新規で受注し整備を開始しました。

■通期業績予想据え置き、調整後 EBITDA プラスへ

第 2 四半期実績を踏まえ、2027 年 3 月期の通期業績予想に変更はありません。

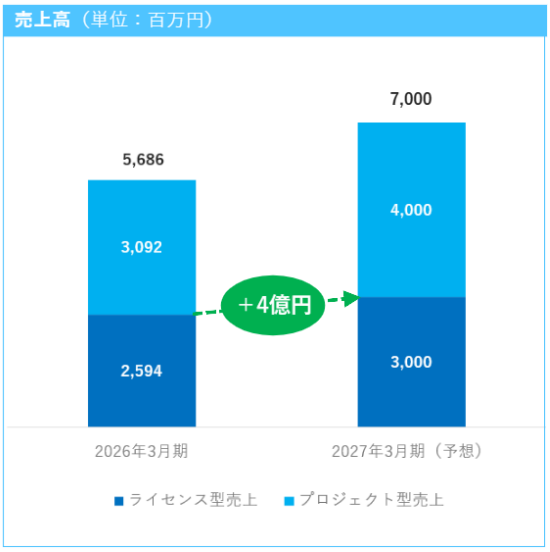
売上高：70 億円

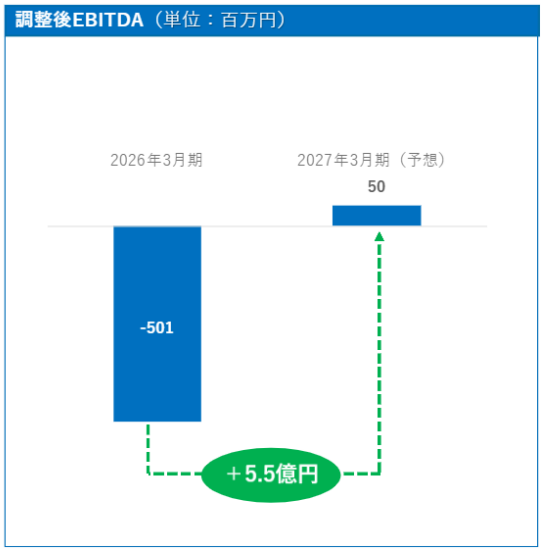
ライセンス型売上高：30 億円

調整後 EBITDA：0.5 億円

下期は、受注済みの国内外プロジェクトを着実に遂行して売上計上につなげるとともに、AI 用途を中心とした法人ライセンス、量産ライセンス、3D データライセンスを積み上げます。あわせてコスト管理とグループ内リソースの活用を進め、通期での調整後 EBITDA プラス化を目指します。

当社は、世界各地で整備してきた高精度 3 次元データと実世界をデジタル化する技術を、フィジカル AI の実装を支える「Data for AI」へ展開し、中長期的な成長を目指してまいります。





（2027 年 3 月期第 2 四半期　決算説明資料より）

＜ダイナミックマッププラットフォーム株式会社について＞
当社は日本政府によるバックアップのもと、国内自動車メーカー10 社等の出資により設立されました。現在は日本をヘッドクオーターに、世界 26 か国で事業を展開しています。
自動運転や先進運転支援システム(ADAS)向けの高精度 3 次元データを主軸に、地理空間データの整備・更新・活用に関する技術や知見を生かし、インフラ管理やフィジカル AI などへ事業領域を拡大しています。
「Modeling the Earth」＝地球のデジタル化をビジョンに、さまざまな産業の進化を支える地理空間データ基盤の構築を目指します。

設立: 2016 年 6 月
本社: 東京都渋谷区
代表者: 吉村 修一
事業内容: 自動運転・ADAS をはじめ多様な産業を対象とした高精度 3 次元データの提供
URL: https://www.dynamic-maps.co.jp/

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の結果や業績は、将来予想に関する記述によって明示的又は黙示的に示された将来の結果や業績の予測とは大きく異なる可能性があります。
これらリスクや不確実性には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
また、本資料は、2027 年 3 月期第 2 四半期決算短信および決算説明資料を補足・要約したものであり、新たな開示事項は含まれておりません。